

## 営農再開を確認



仙台市農業委員会では、昨年市内全域を対象とした農地利用状況調査を行った。

その中で遊休農地の所有者に対して意向調査を行い、自ら営農を再開すると申し出た農地について、今回改めて現地確認をした。

対象農地が市内一円に及ぶため、6月20日から一週間に渡り、地区別に農業委員と事務局が調査を実施した。

事前に、地元の農業委員が耕作再開に向けて助言等を行っていたこともあり、花卉や山菜、果樹など、農地の条件に合わせた作付けがなされていることが確認できた。

高齢化が進み、地域内の担い手が見つからないなど、所有者だけの努力ではなかなか営農再開に至らないのが現状だ。

再調査農地が多かった太白区秋保地区の中野勲委員は「秋保地区の農地保全のため、『農事組合法人あきゅう生産組合』を今年立ち上げた。ソバが好評なので、今後は積極的に農地を借り受け、作付けを広げていきたい」と話す。

農業委員会では、これからも引き続き農地利用状況調査を行い、遊休農地の解消に努めていく。